

芦安小中学校 学校関係者評価書（後期）

令和2年1月22日（水）
学校関係者評価委員会作成

第2回芦安地区学校関係者評価委員会

実施日：令和2年1月22日（水） 午後7：10～8：30

会場：南アルプス市立芦安中学校 多目的ホール

参加者：学校関係者評価委員

委員長 松本 賢司（芦安小中学校PTA会長，学校評議員）

副委員長 金田 康生（芦安小中学校PTA副会長，学校評議員）

委員 清水 実（芦安子を守る会会長，学校評議員）

委員 深澤 米男（南アルプス市議会議員，学校評議員）

委員 森本 浩人（芦安窓口サービスセンター長，学校評議員）

委員 森本 章雄（芦安地区学校応援団代表，学校評議員）

学校職員＜小学校＞ 校長・名取昭彦，教頭・石川和樹，教務主任・江頭祐二

＜中学校＞ 校長・石原敬彦，教頭・辻 純二，教務主任・窪田昌彦

1. 学校側からの提案された内容

- ① グランドデザイン，学校経営方針について（提示による確認）
- ② 学校評価の方法について（提示による確認）
- ③ 評価の全体的な傾向について（自己評価書）
 - ・教職員自己評価（後期）集計結果
 - ・保護者アンケート（後期）集計結果
 - ・童生徒アンケート（後期）集計結果
- ④ 今後の学校経営・運営について

2. 協議された主な内容

- ① 教職員自己評価（後期）の結果について
- ② 保護者アンケート（後期）の結果について
- ③ 児童生徒アンケート（後期）の結果について
- ④ 各項目の評価・達成状況・改善策について
- ⑤ 今後の芦安地区の教育のあり方について

3. 協議されたこと、質疑・意見

<小中>

- ・地域に回覧される学校だよりは、学校になかなか足を運ぶことができない地域住民にも学校の様子が伝わり、とてもありがたいので継続してほしい。
→ 3年前からの取組だが、個人情報にも配慮して取組を継続していきたい。
- ・送迎時の事故防止のため、校門前の駐車を遠慮していただいているのは効果的なので、地域の方にも理解してほしい。
- ・卒業した子どもに聞くと、「人数が少なくてやることが多くて大変だったけどよかった。」と言う。一人一人の役割が多い分、人前で堂々と話すこともできるようになる。乗り越えた時の充実感や達成感がある。
- ・市民会議などによる地域行事に芦安地区外から通学している子どもたちにも、積極的に参加してもらいたい。ラジオ体操へ育成会のみでなく、地域住民・教職員の参加があったのはありがたい。
- ・来年度はどのくらい入学するのか？
→ 小学校3～4名、中学校4名

<小>

- ・家庭学習である自主学習には、テーマ等があるのか？
→ 基本的には、一日の復習、本人の興味・関心によるもの。中学校定期テスト取組期間（2週間前から）に合わせて、重点期間を設定している。
取組については、個人差（家庭の教育方針によるもの含む）がある。
- ・家庭学習について、家庭で協力する内容などをアドバイスいただけるとありがたい。
- ・学級通信は、学校の様子が伝わってくるが、家庭にしてほしいことも載せてもらいたい。

<中>

- ・子どもたちは、忙しいくらいが丁度よい。
- ・芦安文化祭の太鼓の演奏は、子どもたちも先生方も大変だったと思うが、本当に素晴らしかった。
- ・寒くなってきてからのストーブの使用については、経費の面もあるとは思いますが…どうか？
→ 早めの対応を心がけているが、体感温度もあるので子どもたちの声を大切にするようにしたい。
- ・関連して夏のエアコンについてはどうか？
→ 設置されているのは、各教室以外は、職員室・保健室・コンピュータ室・音楽室で、全教室にあるわけではない。個人差があるので生徒の様子に応じて使用している。冬のストーブ同様、体調を尋ねるなど、生徒にも相談しながら使用している。
- ・行事は、雨だからといって中止というわけにいかないものもあるので、保護者の声にすべて応えることはむずかしいのではないかと？
→ 家庭によって事情も異なり、様々な意見もあるので、最大公約数をとって実施している。

4. 分析・評価

- ・昨年度から評価対象が明確になるように評価項目の文言を工夫したことと、小中学校のアンケート分析を同じ形式にしたことで、評価の精度が高まった。また、小中学校の結果が比較しやすくなったことで、小中一貫教育の取組についての検証材料にもすることができた。学校評価の結果を真摯に受け止め、学校運営の工夫・改善に活かしたい。
- ・開かれた教育課程には、保護者や児童生徒の思いを多面的・多角的に受けとめていくことも重要なので、保護者や地域の声に耳を傾け、児童生徒のためにできるだけのことをしていきたい。
- ・少人数指導に基づく基礎基本の定着や児童生徒間や教職員との親密な人間関係等、小規模校におけるメリットや小中一貫校の教育活動の良さを学校だより・HP等を活用して積極的に外部へも周知していきたい。
- ・「家庭学習・自主学習」の取組は、家庭との連携のあり方について再検討し、学校から家庭にお願いしたことを具体的に示していくようにしたい。
- ・学校教育目標を見据え、児童生徒の実態の分析をもとに「目指す児童生徒の姿」に近づけていけるよう「芦安郷育」「小中一貫教育」の推進を図り、「目指す学校像」を実現する。